

服部譲二（指揮）

1969年東京生まれ。8歳で家族と共にウィーンに移り住む。ウィーン・フィルのトップメンバーたちと室内楽を楽しみながら育ったことが、その後の音楽観の形成に大きな影響を与えた。ヴァイオリンをライナー・キュッヒルのほか、ミシェル・シュヴァルベ、ウラディーミル・スピヴァコフに師事。またユーディ・メニューイン氏との交流によって音楽面のみならず、人間的にも多大な影響を受けている。20歳でイギリスのメニューイン国際ヴァイオリン・コンクールで第1位、同時にバッハ賞・聴衆賞を受賞。92年、第3回新日鉄音楽賞“フレッシュ・アーティスト”を受賞。

ヴァイオリニストとして国際的に活躍後、2002年に第1回マゼール／ヴィラー指揮者コンクールにおいて“リンカーン・マゼール・フェローシップ賞”を受賞、カーネギー・ホールでのデビューを果たす。これを機に、指揮者として本格的に始動。

04年よりウィーン室内管弦楽団の正指揮者に就任、ウィーン・コンツェルトハウスでの公演のほか、インド・ツアーなど海外公演でも成功をおさめる。そのほか最近ではウィーン交響楽団、フィルハーモニア管、BBCコンサート・オーケストラ、読響、新日フィルなどを指揮している。07年にはフィルハーモニア管、スロヴァキア・フィル、関西フィルを指揮する予定。これまでマリア・ジョアン・ピリス、ピョートル・アンデルジェフスキ、エリザベス・レオンスカヤ、エレナ・バシキロヴァらのソリストと共演。

2004年、ウィーン室内歌劇場のモーツァルト「偽の女庭師」でオペラ・デビュー。05年に新国立劇場の小劇場にレオンカヴァッロ「ザザ」（日本初演）で初登場、06年には同大劇場でモーツァルト「魔笛」を指揮、好評を博した。07年秋よりドイツ・エアフルト歌劇場の第1カペルマイスターに就任。最初のシーズンはロッシーニ「セビリャの理髪師」、ヴェルディ「仮面舞踏会」、レオンカヴァッロ「薔薇の小公妃」のプレミエを振る。

そのほか、2001年には日本を代表する若手音楽家から成る新しい室内オーケストラ「東京アンサンブル」を結成し、毎年東京公演のほか、韓国、ポルトガル、カナダなど海外公演も積極的に行っている。

<http://www.jojihattori.com/>

<2007年4月現在>